ASCOT CORP.

平成 24 年 10 月 17 日

各　　位

会 社 名　株式会社アスコット
代表者名　代表取締役社長　加賀谷慎二
（JASDAQ：コード番号：3264）
問合せ先　取　締　役　田端　悟
（TEL. 03-5363-8426）

業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 10 月 28 日に発表しました業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 9 月期　連結業績予想（通期）の修正（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回予想（A）	4,400	310	130	130	5 円 55 銭
今回修正予想（B）	3,004	△336	△551	△573	△24 円 27 銭
増減額（B－A）	△1,395	△646	△681	△703	
増減率（%）	△31.2	－	－	－	
（ご参考）前年実績（平成 23 年 9 月期）	3,789	359	106	124	5 円 38 銭

2. 業績予想修正の理由

（1）売上高

平成 24 年 9 月期通期における売上高は、前回発表予想と比較して 1,395 百万円減少し 3,004 百万円（前回予想：4,400 百万円、増減率：△31.2%）となる見込みであります。

主な要因として、不動産ソリューション事業の収益不動産開発において、当期に売却を予定しておりました当社保有 1 物件が、通期にて売買契約を締結しているものの当該決済が翌期となったこと、仲介及び転売収入が、当初計画数値を達成できなかったことによります。

（2）営業利益、経常利益、当期純利益

平成 24 年 9 月期通期における営業利益は、前回発表予想と比較して 646 百万円減少し営業損失 336 百万円（前回予想：営業利益 310 百万円）となる見込みであります。

主な要因として、不動産ソリューション事業の収益不動産開発において、通期にて売却決済を致しました物件の売却価額がたな卸資産計上額を下回る価額であったこと、決済が翌期になった物件の契約価額がたな卸資産計上額を下回る価額であったため、翌期の売上高計上に先立ち売上原価にたな卸資産評価損を計上したこと、以上による損失 337 百万円が生じたことによります。また、不動産ソリューショ

ン事業のソリューションにおいて、仲介及び転売収入が当初計画数値を達成できなかったことによります。

販売管理費は、継続的なコスト削減効果が表れ当初計画数値と比較し 15.0%減少致しましたが、売上総利益での未達数値を吸収するに至りませんでした。

平成 24 年 9 月期通期における経常利益は、前回発表予想の経常利益額と比較して 681 百万円減少し経常損失 551 百万円（前回予想：経常利益 130 百万円）となる見込みであります。

平成 24 年 9 月期通期における当期純利益は、前回発表予想の当期純利益額と比較して 703 百万円減少し当期純損失 573 百万円（前回予想：当期純利益 130 百万円）となる見込みであります。

当社は、本業である分譲マンション開発事業におきまして、金融危機により凍結した新規分譲開発用地仕入を平成 23 年 4 月に再開し、来る平成 25 年 6 月に既に完売済みの「アスコットパーク日本橋人形町アトリエ」の竣工を機に、順次、竣工引渡を予定しております。

それに先立つ平成 24 年 9 月期におきましては、資産圧縮・有利子負債圧縮等による財務体質の改善が資金調達面の改善を進めるために重要であり、また本業である分譲マンション開発へ新規投資を行うため、物件売却による投下資金回収が必要であると認識しております。これらを総合的に考慮し、個別物件の損失を伴う売却は、本業を軸とした全体計画を推し進めるうえで、経済合理性に合致すると判断し、結果として損失を計上することとなりました。

今後は、既に仕入れ済みの新規分譲物件が着実な収益を現実化させる段階と考えております。引き続き財務体質の更なる強化を図るとともに、分譲マンション開発事業を軸とした経営強化策を実行していく所存でございます。

以　上

上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日における予想を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる場合があります。